

「令和7年度全国高等学校総合体育大会サッカー競技大会（男子）」 報告
島根県ユース審判員 小早川稀

【日程】

2025年7月26日（土）～8月2日（土）

【会場】

Jヴィレッジ（天然芝）

Jヴィレッジスタジアム（天然芝）

広野町サッカー場（人工芝）

住鉱エナジーマテリアル NARAHAMA ピッチ（人工芝）

ハワイアンズスタジアムいわき（天然芝）

新舞子フットボール場（人工芝）

【活動・研修内容】

大会前 月1回のZoomでの研修（3/23, 4/26, 5/10, 6/21）

大会での審判活動（1回戦、2回戦）

【担当試合・事象・気付き】

1回戦 飯塚（福岡） 2-1 修徳（東京②） in Jヴィレッジ P1 （副審 2）

- ・難しいオフサイドの判定はほとんどなかった
- ・フラッグアップとファウルで指す手が逆になってしまい下で持ち替える動作が必要になってしまったこと→下で持ち替えて、フラッグアップしてから指す
- ・試合の時間帯、スコア、4局面に応じた選手の心情・ポジショニングを確認しておく
→選手のプレー選択も変わることが予測できる→SPAやDOGSOなどの判定がよりクリアに正確にできる
- ・選手にこまめに感謝を伝える（スローインやフリーキックのポイント修正時など）
- ・選手間やベンチ間で対立した際の仲裁を丁寧にする
- ・動きにメリハリをつける→見栄えも良くなる、体力も温存しやすい
(止まる、走る、開く、閉める等)

2回戦 高知中央（高知） 2-1 前橋育英（群馬） in Jヴィレッジ P2 （副審 2）

- ・難しいオフサイドの判定はほとんどなかった
- ・ゴールライン際、A2サイドのペナルティーエリア内で正当なスライディングタックルがあったと見え、コーナーキックを指したがRはペナルティーキックをとった。そのため打ち合わせ通りコーナーフラッグにステイしRから見えたスライディングタックルの意見を受けた。私はボールへのスライディングタックルは正当であったことを伝えた。Rからはボールとのコンタクトの前に足と足の接触があったと受けた。私はオフサイドラインとボ

ールのインアウトの判定のためボールとのコンタクトしか見ることができなかつた。そのため見ることのできなかつた足と足との接触に関して私は判定できないため R の判定に乗り、再びペナルティーキックの判定を下した。

→ボールのインアウト、オフサイドラインの監視のみに視点をやらず、スライディングタックル全体に視点をやる余裕があれば判定できた→日頃の Tr、試合のレベルを上げる

- ・ソックスの低い選手への対応→レフェリーチーム全体として揃えるべきこと（前日の Zoom で指導あり）
- ・クーリングブレイク後の交代で問題が起きないように 4 人で確認できた

【まとめ】

この度は令和 7 年度全国高等学校総合体育大会サッカー競技大会に参加させていただきありがとうございました。

全日本高体連レフェリー選抜選考合宿から月 1 回の Zoom などで今大会に向けていろいろな研修の場を提供していただきありがとうございました。おかげさまで自分のレフェリングに磨きをかけて大会に臨むことができたと思います。大会を通して新たなユースレフェリーや各地域で活躍される 2 級審判員の方々と試合を作り上げることができたのは、とても良い経験となりました。また、今大会はユースレフェリーとしての派遣で、副審のみの担当でしたが、各地域の 2 級審判員のそれぞれ特徴のあるレフェリングを自分のものとして取り入れ、自分も同じようにこの舞台で主審を担当したいと思いました。今大会で得た失敗や経験を忘れることなく今後の審判活動に活かしていきたいと思います。

今大会、参加するにあたり携わっていただいた全国高体連、大会関係者、指導スタッフ、インストラクター、ユース審判員、中国 FA、島根 FA の皆様に感謝致します。本当に貴重な経験をさせていただき本当にありがとうございました。

